

☆月刊ハドspo 4月号

ちょっと東北の方へ被災地支援に行ってまして、4月大会結果及びハドspoをお届けするのが遅くなりました。申し訳ありませんでした。

しかし、テレビやその他媒体の写真で被害状況は見ていたのですが、いざ生でこの目で現地を見ると伝わってくるものが違いますね。奥行きというかスケールが違うし、臭気、それにダストなんでしょうか、マスクせずに現地を歩くと体内に色々なものが入ってくるのか、すぐ頭が痛くなったり気分が悪くなります。自分は主に津波被害のあった地域の一部を見たのですが、港の背後の工業地帯や海沿いの住宅地の被害は最悪です。「この辺は田んぼばかりなんですね」と自分が喋ったら、「え、これ、全部住宅地だったんですよ」と現地の人、もう絶句するしかありませんでした。まさに生存者がいること自体が奇跡と思えるような状況が広がっていました。

また、海ばたからは少し離れた、地域の基幹道路である県道沿いでは、郊外大型店舗に津波に飲まれた乗用車がまるで巣に入り切れなくなったミツバチのように何台も突っ込んでいる光景が何か所もありました。自分は直に目にしましたが、同じように至る所で家屋にも車が突っ込んでいることです。

以上、書き出すとキリがないのでこの辺にしておきますが、皆さん、それぞれのお立場でこの震災に対しての被災者支援、復興に向けての取り組みに対するご助力、考えてみてください。と言って、古着とか使い古しで要らなくなったもの送っちゃ駄目ですよ。置くところもないし、ちょっと上から目線的な感じにも受け取られ（本人は良かれと思ってのことかもしれません）、私の居た避難所では本気でヒンシュク買ってましたから。

さてさて、前置きが長くなってしまいましたが、4月大会の記事です。

○この2011サーキットが始まる直前、「12カ月連続出場目指します！」と力強く宣言して下さっていた渡部幸由さんですが、この年度変わりにまつわる業務量のボリュームがさぞかしつきかったのでしょうか、大会直前、ご丁寧に出場断念のご連絡をいただきました。本人もさぞ口惜しい気持ちだったでしょうが、私も渡部さんと12カ月連続で対戦したいと思っていましたので非常に残念です。こうなると皆勤は残すところ主催者除き3人になってしまいました。中島さん、佐藤幸司さん、立石さん、あと8大会のハードコアマラソン、是非皆で手を取り合って感動のゴールイン目指しましょう！！

○かなり久しぶりの出場となった石飛さんですが、久しぶり過ぎて皆さんと真顔で挨拶するのが照れくさかったのか、大して晴れてもないのにグラサン掛けての登場でした。

そういえば、表彰式の記念撮影でもグラサンされてますね。石飛さんがグラサンされてる

時は照れて動搖されているってことのようですね。

○今大会は、12名参加というそれほど大きな規模の大会ではなかったのですが、その中のちょうど半分の方、田中さん、石飛さん、福島さん、渡部文さん、木村さん、私高倉が過去に優勝経験があるということで、実は過去最高レベルの大会だったのかもしれません。これにもし古田さん、熱田さんが入っていたらほとんどチャンピオンカーニバルの様相を呈していましたことになります。いやはや、豪華でした。

○そんな大会を象徴するかのように予選Cは3名の優勝経験者+眠れる獅子、いや眠り過ぎの獅子！？ながらも潜在能力は国体選手級の立石さんという超超ハイレベルな顔ぶれになりました。そして皆の注目度も高く、緒戦、石飛さん対木村さん戦からギャラリーが一球一球に熱い視線を送っていました。それにしても、この試合は凄かった。戦前の予想では、木村さんの堅いディフェンスに対して、石飛さんが攻め抜くことが出来れば石飛さんの勝利、それが出来なければ木村さんの勝利かと思っていたので、最初のゲーム、石飛さんが短くなったチャンスボールを決めずに入れに行った時点で、「そこで打ち抜かないとポイント獲るところないでしょ！この戦い方続けたら石飛さんの負けだな」などと戦況分析していたのですが、この試合はそんなシンプルな構図ではないってことが、ゲームが進む度に思い知らされました。というのは、石飛さんが攻めずに木村さんと同じようなプレースタイルでがっちり守りに入ったからです。かといって安易なボールの供給による繋ぎ合いとかではなく、本当に組み立て組み立てで、どちらかが勝負に出た時のアプローチショットの質、精度、もしくはその返しの一発の威力がポイントを左右するという次元の高い内容になっていきました。だからワンポイントでのラリーも長く、30～40ラリーがざらにあったと思います。そんな中で、試合時間も長くなり、緒戦から激しい消耗戦になってしまったため、終盤では木村さんに異変が生じます。持病の喘息がひどくなつて度々息苦しそうなしぐさをされるようになります。そのことが勝負に影響したかどうかはわかりませんが、この死闘、結局石飛さんが6-5で制されました。文字通りの死闘でした。そのことをよく物語るエピソードを一つ。大会全日程を終了し表彰式後、私は石飛さんに駆け寄り、練習試合を申し込んだのですが、返ってきた言葉がこれ

「今日は疲れた。最初の試合が長過ぎた。」

でした。石飛さんと何年も一緒にテニスしてきて、そもそも「ハードコア」という言葉は石飛さんの練習風景を見て思い浮かんだ言葉でもあり、あんな部活以上にハードコアな練習をしても疲れたなどと呟いたことの一度もなかつた人の口から「疲れた、もう出来ん」という言葉が出るとは！！この試合がどれだけの死闘だったかを如実に表していると思いました。

それにしても、後から考えれば予選Cはこの試合がキーポイントでありクライマックスだったのかもしれません。

木村さんはこの試合で精魂尽き果てたのか、続く福島さん戦では良いパフォーマンスが出来てなかったように思えます。立てさんもこの試合を見て怖気づかれたのか、台風の目となることは出来ませんでした。しかし、個人的には一番楽しみだったのは木村さん対福島さんのテクニシャン対決だったので、まさかあんな一方的な内容になってしまったのは残念でした。次の機会を心待ちにしましょう。

○予選については、C以上に取得ゲーム数とかでハラハラドキドキさせていただいたのがグループAです。

まず緒戦、建部さん対渡部さん、聞くところによると5-2くらいで建部さんがマッチポイントを迎えるシーンもあったようですが、そこから捲られ渡部さんの逆転勝ち、その結果を踏まえて、キーポイントとなったのは、田中さん対渡部文さん戦。この試合も先行する渡部さんの気迫と追い掛ける田中さんのショットの威力の攻防、メチャメチャ面白かったです。

どんなに渡部さんが先行してもストローク力で優位に立てる田中さんにも逆転のチャンスは十二分にあると思っていたので、渡部さんが集中力を一瞬でも欠けば田中さんが捲ってくるような展開になるだろうと思っていました。

でも、渡部さんが重要なところで勇気と質の高いアプローチショットでよく前に出たと思います。また、いつもと違い積極的にネットプレーに出て相手にプレッシャーをかける田中さんからよくパッシングショットでポイントを獲っておられました。非常に質の高い試合で、渡部さんの気持ちの強さが随所に見受けられた試合でした。渡部さんが先行逃げ切り6-3勝利。

これによって、一敗している建部さんにも上位T進出の芽が出てきます。坂本さんに6-3以下で勝てば建部さんが得失点差で上位Tへ、逆に坂本さんに負けるもしくは6-5で勝っても田中さんが上位Tへ。6-4だとジャンケンになります。

でも、坂本さんに勝つことって優勝5回の私高倉でも相当骨の折れる作業なんで、勝ち星計算どころか喪失ゲーム数計算など出来る相手ではないですし、過去に建部さんは何度も坂本さんに敗れています。これは面白くなってきたと思い、試合を見ていたら、なんか一方的な展開、あっという間に建部さんがボールを持って帰ってきて、スコアを聞いたら「0」、びっくりしました。坂本さんに0で勝ったということと、田中さんが上位Tに上がれないという事実に驚きました。

なんで坂本さんに圧勝出来るのに過去ハードコアで優勝経験がないのか、本当に建部さんという人は不思議な人です。かくして、大混戦の予選Aは渡部さん、建部さんが上位Tへ進出されることになりました。

そういえば、東部選手権、順当に行けば、渡部文さん対田中さんが対戦されているはずですが、結果はどうだったのでしょうか。「江戸の借りを長崎で返す」なんて言葉がありますが、「ハードコアの借りを県大会で返す」逆に「県大会の借りをハードコアで返す」なんて

ことがかなり一般的になってきましたよね。

○さてさて、今回は予選が相当アツかったので、長らく書いてしまいましたが、ここからは今月の台風の目であり、最後には主役にまで昇りつめられた、佐藤幸司さんについて書こうと思います。

しかし、今月の佐藤さんの快進撃は痛快でした。決勝Tでの、前述した建部さん、福島さん、そして決勝の石飛さんとチャンピオン級を全部なぎ倒しての完全優勝！内容もスコアは接戦ですが、勝つべくして勝っているものばかりです。

まさに先月、寸でのところで逃した宝物を満を持してというか、倍返しにして奪還した感がある内容でした。

さて、今大会、佐藤さんの何が他を圧倒していたのか。それを知りたくて、本戦では対決出来なかったので、居残り練習試合を申し込んでお手合わせいただいて、私なりに感じたことを述べたいと思うのですが、ポイントは2つあって、1つは球際の強さ、それ故に可能となるライジングでのコース変更（それもエグいところに入ってくる）、もうひとつは見た目とことん我流なんでそれが功を奏してストロークの打ち合いしていてもコースが全く読めないというようなトリッキーさ、ということになるでしょうか。佐藤さんのプレーを理解する鍵は、実はそのトリッキープレーを陰で支える器用さにあるかもしれません。

また、ストロークだけではなく、ネットに出る時のアプローチショットの質、ネットプレー時のボレースマッシュ、なんかスクールや教科書で教えられるものとは一番遠いところにあるようなスタイルなんですが、それでもまさしくこの部分が前大会、今大会と他のプレーヤーを寄せ付けなかった要因であり、見た目と違って凄い破壊力があるのです。これも佐藤さんが先天的に有する器用さに基づくものなんじゃないかと思います。

後は、今までになく集中力が出てきているなって思います。前大会と今大会は、ある一定レベルのプレーをワンディイトーナメントの最初から最後まで維持できていたように思います。

これらのこととが総合して、佐藤さんの対戦者はやってるうちに、いつの間にかどうやらポインツ獲れるのか段々わからなくなっていくという現象が起きると思うんですよね。これが今の佐藤さんの強さなんでしょう。

と、誰もが気付かないうちに、すくすくと成長してきた佐藤さんですが、これも日々の練習とハードコアに可能な限り毎月ご参加いただいた成果ではないかと、主催者ならではの勝手な分析をしつつ、今後の佐藤さんの活躍に想いを馳せるわけであります。

こうなったら、どっかの県大会で優勝して欲しいなあ。

そのためには、サーブの威力増強とバックボレーの修正と渡部文さんのような気持ちの強さ、いわゆるライオンハートを心の中に忍ばせておいて欲しいですね。別に表だってウォウォウ言わなくていいですから（逆に佐藤さんがそれやったらもう佐藤さんじやなくなるような・・・）、ポーカーフェイスで淡々とプレーする中にもここってポイントは絶対に

落とさないという強い気持ちが更にあると、対戦する方としてはもうほとんどつけ込む隙がなくなってきますからね。

というわけで、久々に現れた次世代年間チャンピオン候補の佐藤幸司さんが、どんな大会でも通用する本当の意味での高いレベルを有するプレーヤーに成長して貰うため、我々ハーフコア戦士に出来ることは、「立ちはだかること」だと思います。かつて巨人軍と対戦する他のセリーグのチームはやりくりしてエース級を立て、投手も野手もモチベーションを更に高めて向かっていったと言います。星野仙一さんなんてその典型的な例ですね。そんな感じで、これまで以上に佐藤さんとの試合ではみんな気合い入れてぶつかって行きましょう！！

では、5月大会をお楽しみに！！